

Press Release

報道各位

2021年8月10日
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団

藤島武二と猪熊弦一郎展 サンプリシテとシンプル 2021年9月18日 [土] ~12月5日 [日]



藤島武二《大王岬に打ち寄せる怒涛》1932年 三重県立美術館蔵



猪熊弦一郎《ピンク・丸・角》1977年

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館蔵 ©公益財団法人ミモカ美術振興財団

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（^{ミモカ}MIMOCA）は、猪熊弦一郎の生涯の師である藤島武二と猪熊の画業に焦点を当てた企画展を開催します。

藤島が「サンプリシテ」、猪熊が「シンプル」と呼んだ単純化。制作においてともに重視していた考え方を推し進めながら描いた二人の作品をご覧ください。展覧会です。

プレス関係の皆様には広く告知いただきたく、お願い申し上げます。

■本展について

藤島武二（1867－1943）は、明治、大正、昭和を通じて白馬会や文展、帝展を舞台に活躍し、日本近代洋画を牽引した一人です。洋の東西を融合した華やかな女性像や、晩年、理想の日の出を求めて描いた簡潔な表現の作品で知られています。同時に 1896 年に東京美術学校西洋画科助教授に就任して以降、多くの若者の指導にあたり、猪熊弦一郎（1902-1993）もその薫陶を受けて画家の道を歩み始めました。

猪熊は、30 代後半での足掛け 3 年のパリ遊学、50 歳を越えてからの約 20 年に及ぶニューヨークでの活動、その後ハワイと東京での制作と、拠点を変えながら描き続けました。その間、具象画から抽象画へと変化し、晩年には具象と抽象の枠を超えた作品を制作しています。

藤島と猪熊の画風は異なりますが、ともに重視していたことが「単純化」でした。それぞれ「サンプリシテ」、「シンプル」と言い、複雑なものをいかに簡潔に表すか、描こうとしている本質を表すためには何を取り除いて何を残すか、残したものをどのように組み立てて描くかを常に考えながら制作に取り組んでいます。

本展では二人の初期から晩年までの作品をご紹介します。それぞれの方法で「単純化」を推し進めながら描いた作品をご覧ください。

■本展の特徴

（1）「サンプリシテ」と「シンプル」

藤島武二と猪熊弦一郎の作品は、一見するとかけ離れているように見えます。藤島が描く対象となる風景を簡約し、色の帯、あるいは色面で大きく捉えた構成へと進んだのに対し、猪熊の作品は形が画面いっぱいに溢れるようになりました。ところが二人がともに大切にしていたことは「単純化」であり、藤島は「余贅なるものを省略し」、猪熊も「描きすぎた部分をどんどん切りすて」と記しています。「描かなければならないものだけで描く」という共通する意識のもと制作された、全く異なる魅力あふれる二人の作品をお届けします。

（2）何枚も描く藤島

晩年の藤島は、昭和天皇の御学問所を飾る作品のテーマと定めた日の出を描くため各地へ赴き、訪れた先では長逗留して何枚も同じ風景を描きました。本展では一つの土地で描いた複数の作品を展示します。藤島が各風景に感じた魅力を、「サンプリシテ」によって十全に表した絵画をご覧ください。

（3）猪熊の「シンプル」

「シンプル」と言いながら、決して単純な形を規則的に描くだけではないのが猪熊の特徴です。80 歳になる頃から以前にも増していろいろな形を描き込んだ作品を制作しました。画面の構成は複雑になりながらも不要なものを厳しく省くことで魅力を増していく猪熊の作品をご紹介します。

■開催概要

展覧会名 | 藤島武二と猪熊弦一郎展 サンプルシテとシンプル

主催 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

会場 | 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

会期 | 2021年9月18日(土)~12月5日(日)

開館時間 | 10:00~18:00(入館は17:30まで)

休館日 | 月曜日(9月20日は開館)、9月21日(火)

入館料 | 一般950円(760円)、大学生650円(520円) 常設展の観覧料含む
 高校生以下または18歳未満・丸亀市在住の65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
 ※()内は前売り及び20名以上の団体料金
 ※11月20日(土)、21日(日)、23日(火・祝)は開館30周年を記念して入館無料(入場制限する場合あり)

同時開催

常設展「猪熊弦一郎展 デフォルマシオン」

入館料 : 一般300円(240円)、大学生200円(160円) ※企画展の観覧料は別途

■プロフィール

藤島武二 (ふじしまたけじ)

1867年鹿児島県鹿児島市生まれ。明治から昭和にかけて日本の洋画を牽引し、横顔の女性像や日の出を描いた風景画がよく知られる。また1896年より東京美術学校(現東京藝術大学)西洋画科助教授、1910年同校教授となり、多くの学生を指導した。1936年の猪熊弦一郎らによる新制作派協会(現新制作協会)結成を支持し、第1回展には作品5点を賛助出品する。1937年第1回文化勲章受章。1943年逝去。

猪熊弦一郎 (いのくまげんいちろう)

1902年香川県高松市生まれ。1922年東京美術学校西洋画科入学。3年時より藤島武二の教室で学ぶ。1936年、新制作派協会を結成。藤島の賛助出品を受け、芸術に真剣に取り組む大きな責任を感じる。初期は具象画から始まり、1955年の渡米後は抽象画へ、そして晩年は抽象と具象が共存する絵画へと発展した。1991年、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。1993年逝去。

■関連プログラムについて

親子で MIMOCA の日

2021年10月16日(土)、17日(日)

子どもが芸術に触れる機会を増やすことを目的として2020年度より開始しました。この日は高校生以下または18歳未満の観覧者1名につき、同伴者2名まで観覧無料となります。

開館 30 周年記念

2021年11月20日(土)、21日(日)、23日(火・祝)

開館30周年を記念して、3日間にかけて全館入館無料とします。同時にミュージアムグッズの一部もセール販売します。ただし入場制限を行います。

【注】新型コロナウイルス感染症の拡大など社会情勢に応じて変更・中止する可能性もございますので予めご了承ください。

■広報用画像について

出展作品の画像を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記 URL からお申し込みください。

<https://www.mimoca.org/ja/press/>

画像一例



藤島武二《イタリア婦人像》1908年
福岡市美術館蔵



藤島武二《匂い》1915年
東京国立近代美術館蔵



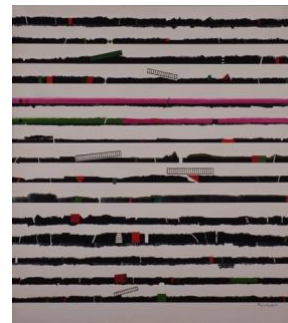
藤島武二《港の朝陽》1934年
東京国立近代美術館蔵



猪熊弦一郎《サクランボ》1939年



猪熊弦一郎《横臥裸子と鳥達》1991年



猪熊弦一郎《Landscape GT》1972年

【お問い合わせ先】

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
企画展担当：松村 円 広報担当：奥本末世
〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1
Tel. 0877-24-7755 Fax. 0877-24-7766
www.mimoca.org E-mail. press@mimoca.org

猪熊作品は全て
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館蔵 ©公益財団法人ミモカ美術振興財団